

ま え が き

三 由 信 二

本校も創設せられてから早くも満20年をけみし、昨秋には盛大に記念の式典を執り行ない、高校教育の充実と発展のために、本校が払ってきた努力とその成果について回想し、きびしく自己批判すると共に、われわれの教育的責任を深く感銘し決意を新たにしたい次第であります。本校教官による「高校教育研究」の刊行も今回をもって19号を重ねるに至りました。本号の内容はいずれも本校における現実に即した教育研究と実際の生きた教育実践の記録の一部であります。

「学校行事等の問題と対策」は昨年全付連高校教育研究大会において行ないました本校の生徒指導の実態の報告であります、各位のきたんのない御批判御指導を賜われれば幸いに存じます。

「Gist-grasping の実際と指導」は英語科教育法上の主眼点の一つについて、又「平面幾何の指導についての一考察」は数学教育上の問題点についての提案であり、「初期学習における化学教材の展開(第4報)」は理科教育における化学教材の取扱いに関するもので、又「戦争理解への教育」は社会科教育特に世界史学習指導の立場から歴史的事象としての戦争の捉え方戦争観の種々相の理解と平和思想の涵養の問題についての提言であり、「防人歌の位置」は国語科教材としての万葉集の防人歌の解釈を繞る思想的立場の問題と鑑賞の態度について論じたものであります。要するに以上5篇はいずれもそれぞれの教科教育法の立場において学習指導の方法論ないし具体的な教材の見方や取扱い方についての提言でありまして、観念的抽象的な教育論ではなくて、極めて現実的具体的な教育研究報告と云いえるかと考えます。最後に「インドネシアに使いして」は氏が文部省の委嘱により後進国の理科教育指導員として半ケ年に亘って同地に滞在せられ、実際指導に当られた体験の記録であって、海外教育事情として御参考の資にもと存じます。

以上の諸論説は紙数の関係もあって充分意を尽していない点もあり尚論議せらるべき点も多いことと思いますが高校教育の前進に一歩たりとも役立つ所もあれば幸いと考えられるのであります。